

浜松市デジタル・スマートシティ 官民連携プラットフォーム 運営委員会

第4回会議

Digital Smart City HAMAMATSU

令和2年12月7日





- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 浜松市デジタル・スマートシティ構想（素案）
- 4 （仮）スマホやICTお出かけ講座
- 5 各事業の状況報告
 - (1) 浜松ORI-Projectの進捗状況
 - (2) 浜松デジタル・スマートシティMONTH事業
 - (3) デジタル・スマートシティ浜松オンラインフォーラム開催概要
 - (4) 相生校区8町合同地域防災訓練
- 6 各分野の状況報告
 - (1) 防災・安全分野
 - (2) 教育・子育て分野
 - (3) デジタル・ガバメント分野
- 7 意見交換
- 8 閉会

2 あいさつ

Digital Smart City HAMAMATSU



委員長（浜松市副市長） 長田 繁喜

1. 会議参加時

- 基本的に「ビデオはON」、「音声はOFF（ミュート）」

2. ご発言時

- オンラインでの参加者
「音声をミュート解除」し、最初にお名前をお伝えいただいたのちにご発言ください。
- 現地参加者
お手元のマイクにてご発言ください。

3 浜松市デジタル・スマートシティ構想（素案）



～ デジタルで“繋がる未来”を共創 ～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

目指す方向性（基本理念） 「市民QoLの向上」と「都市の最適化」



推進体制とエコシステム

官民共創によるまちづくりを進め、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。



【推進体制】

- 「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」(PF)を中核に官民共創でデジタル・スマートシティを推進。
- PFは各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ利活用を推進。
- PFは民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム及びコーディネーターの機能を担う。

【目指すエコシステム】

- ベンチャーなどから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- 実証実験は「国土縮図型都市・浜松」の多様なフィールドを活用。
- トライ&エラーを繰り返し、社会実装へとつなげる。

市民は、実証実験への参加やサービスを選択する形で「市民QoL向上」に貢献。

企業は、地域課題の解決に参加することでイノベーションや新たなビジネス創出の機会とする。

デジタルで“繋がる未来”の概観

デジタルの力を最大限に活用し、課題解決型のアプローチと未来に夢と希望を持てるチャレンジを組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を創造します。



遠隔医療やIoTを活用した見守りでどこでも安心して生活。AIがデータに基づきお薦めの食事や運動を紹介してくれて、いつまでも健康に生活。

高齢者や障がい者、外国人、女性、誰もがデジタル技術に支えられ、社会と繋がりが、それぞれの力を発揮。

デジタル活用で世界と音楽で繋がりが、デジタル・音楽・芸術が融合した新たな文化を浜松から発信。

世界の学校と繋がりがオンライン留学。AIが自分にあった学習メニューを推薦。年齢に関係なく、誰でも多様な学ぶ機会があり、いつでもチャレンジ可能。



ドローンやロボットの活用で省力化と生産性が向上。AIやビッグデータを駆使し、付加価値が向上した儲かる農業が実現。

どこにいてもドローンで好きなもの・サービスがいつでも届く。免許を返納してもライドシェアや自動運転で自由はどこへでも移動。

スマホ1台でどこでもいつでも簡単手続。必要な情報は必要な時に届き、困ったときは、24時間、AIコンシェルジュが対応。職員の対面相談も選べる、便利で安心な市役所。

センサーのデータやAI予測により危険を回避。被害を最小限に抑え、災害の状況もリアルタイムで可視化。大切な人や情報、支援に繋がりが安全・安心な社会を実現。

デジタルで“繋がる未来”のキーワード

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワークや多拠点居住の促進）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）

第一期（2020年度～2024年度）における重点取組分野

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、①本市の強みを活かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナのニューノーマルや安全・安心への対応、③課題解決型アプローチによる持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組めます。

① 浜松の強みを 唯一無二のものに

ウエルネス

- 「予防・健康都市浜松」実現に向けた官民連携
- 健康情報を活用した生活習慣病等の予防・改善
- 介護ロボット等の活用による介護従事者の負担軽減
- AI等を活用した健診（検診）の受診率向上

音楽文化・ エンターテイメント

- デジタル技術を活用した文化事業の実施
- ニューノーマル時代のエンターテインメントの新たな楽しみ方の創出と普及
- インターネットを活用した音楽文化等の発信とリモートによる国際交流の推進

産業（ものづくり・農林業）

- 国土縮図型都市・浜松のフィールドを活用した新たなサービスやソリューションの創出
- サテライトオフィス等を活用したベンチャー企業等の誘致
- スマート農林業の推進
- 中小企業の生産性向上に向けたIT・IoT等の活用支援

商業・観光

- デジタル・マーケティングの活用による情報発信
- 新しい生活様式に即した観光の活性化と賑わいの創出
- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- キャッシュレスの推進
- デジタルを活用したインセンティブ付与による誘客や消費活性化の研究

② 浜松らしい ニューノーマル社会の実現を目指して

リモートワーク・ 多拠点居住

- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- リモートワークやテレワークの推進
- テレワークパーク構想の推進
- 副業・兼業人材の活用促進

見守り・ 災害対応

- IoT等を活用した高齢者や子どもの見守り推進
- 災害予測や災害状況の効果的な把握
- 災害関連情報の効果的な提供
- 避難所の効果的な3密対策

教育・ 子育て

- GIGAスクール構想の実現に向けた教育環境整備
- オフライン授業とオンライン授業のハイブリッドによる持続可能な教育の推進
- ICT等を活用した子ども子育て世代への効果的な情報提供や相談体制の構築

デジタル・ ガバメント

- 書面規制・押印・対面規制等の見直し
- 行政手続きのオンライン化やキャッシュレスの推進
- マイナンバーカードの取得促進とマイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充
- 多様な伝達手段による情報の提供
- AIやICT等の活用による生産性の向上
- DX推進に向けた職員の人材育成

第一期

デジタル・ スマートシティ 浜松 の基礎固め

③ デジタルの力で持続的・包摂的社會を構築

モビリティ

- モビリティとサービスの連携による持続可能なまちづくりの推進
- モビリティサービス推進コンソーシアムを中核とした官民連携によるプロジェクトの創出
- 医療Maasの推進
- デリバリープラットフォームの推進
- テレワークパーク構想の推進

社会参加促進

- AIやICT等の活用による障壁の除去
- バリアフリー情報等のオープンデータ化の促進
- 情報へのアクセシビリティの向上
- ICT技術やSNS等を活用した市民参加の促進
- シニア向けスマホ講座等の充実

インフラ

- ドローンやセンサー等の活用によるインフラの老朽化対策
- 点群データなどインフラ情報のデジタル化
- 都市のデジタル化推進におけるインフラの活用や高度化の検討

エネルギー・循環型社会

- 「浜松市域“RE100”」の実現に向けた推進
- スマートコミュニティ、スマートタウンのモデルの構築
- スマートプロジェクトの実現
- 新清掃工場及び新破砕処理センターをモデルとしたサーキュラーエコノミーの推進

④ 共創の基盤を構築し より強固なものに

人材育成

- 次代を担う若者の育成
- データ活用に関するセミナーやハッカソン等の開催
- シニア向けスマホ講座等の充実
- 人材育成におけるリモートやオンラインセミナー等の活用
- 人材育成における大学やCode for Japan等との連携

官民共創による 推進体制の強化

- 浜松市フェロー等外部人材の活用
- 官民共創によるプロジェクト創出に向けたアイデアソン等の開催
- 次代を担う若者世代の巻き込み
- 官民連携プラットフォームを活用した分野間の連携促進
- シビックテックとの連携や共創

データ連携基盤の整備や オープンデータの拡充

- データ流通のハブとなるデータ連携基盤の整備と利活用
- データ連携基盤の活用事例の創出（Ori-Projectの推進）
- オープンデータプラットフォーム(ODPF)の整備と利活用
- 点群データのオープンデータ化と利活用促進

通信基盤等の 整備や利活用促進

- 中山間地域等への光ファイバ網の整備支援
- 5Gアンテナ基地局の設置や利活用の促進
- 各種通信（高速・低速等）活用の事例の共有と横展開
- 活用事例の創出やニーズ喚起による各種通信インフラ整備の働きかけ

浜松市デジタル・スマートシティ構想（案）

Digital Smart City HAMAMATSU

令和2年11月30日時点

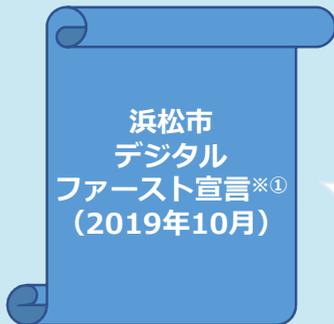


現状と課題



デジタル活用による課題解決への期待の高まり

先端技術や様々なデータを活用し、官民連携で地域課題の解決や、よりよい暮らしの実現を目指す「デジタル・スマートシティ」への期待が国際的に高まっている。



先端技術やデータなどデジタルの力を活かし、持続可能なまちづくりを行う「デジタル・スマートシティ」の取組を開始。

国の政策動向やまちづくりの潮流

「新たな日常」構築の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備
デジタルニューディール※②

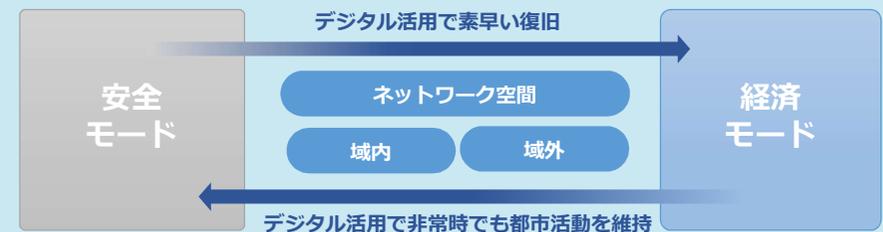


「新たな日常」が実現される地方創生
多核連携型の国づくり、地域の活性化



(出所) 内閣府 経済財政運営と改革の基本方針2020

COVID-19/災害激甚化に対応する持続可能な社会
デュアルモード社会※④の構築



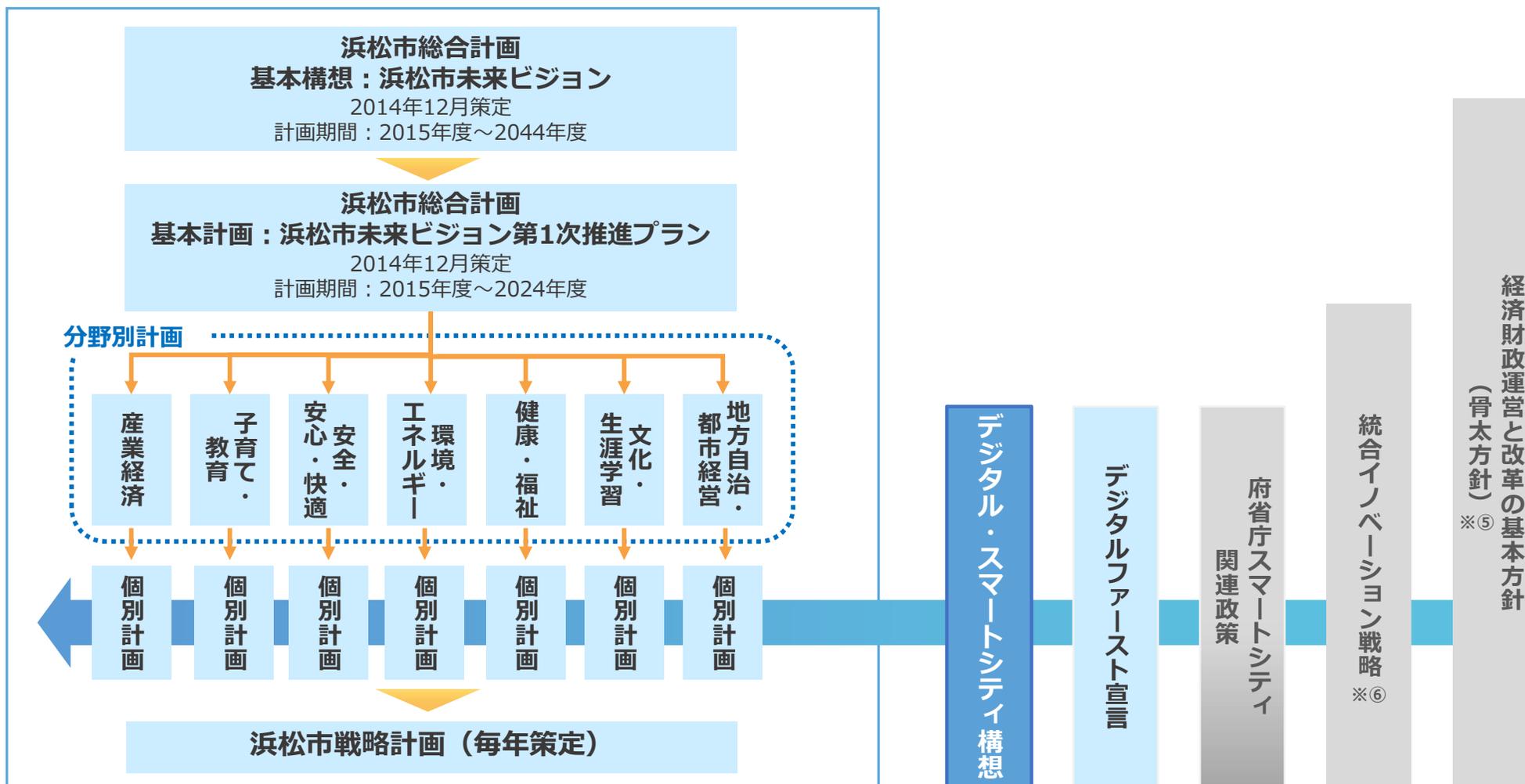
II 構想策定の趣旨／構想の位置づけ

■ 構想策定の趣旨

「浜松市デジタルファースト宣言」に基づき、都市づくりをデジタルファーストで進めるデジタル・スマートシティ政策の指針として策定し、多くの方々と共有し、官民共創で“デジタル・スマートシティ浜松”の実現を目指します。

■ 構想の位置づけ

「浜松市デジタル・スマートシティ構想」は、本市の最上位計画である総合計画に基づく個別計画であるとともに、デジタル活用の観点から分野横断的な取組の指針となるものです。



将来像

～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

目指す方向性（基本理念）

「市民QoL※^⑦の向上」と「都市の最適化※^⑧」

必要な視点1

オープンイノベーション※^⑨

イノベーションの創出に向け、組織や分野等を超えた共創のまちづくりを推進します。



必要な視点2

市民起点/サービスデザイン思考※^⑩

デジタルは、「市民QoL」「都市の最適化」のための手段と捉え、“市民起点”のまちづくりを推進します。



必要な視点3

アジャイル※^⑪型まちづくり

スモールスタートでまずチャレンジし、トライ&エラーを繰り返し、変化に強いまちづくりを推進します。



基本原則1

オープン/相互運用性

基本原則2

包摂性/多様性

基本原則3

透明性/プライバシー

基本原則4

持続可能性

基本原則5

安全・安心/強靭性

デジタルの力を最大限に活用し、課題解決型のアプローチと、未来に夢と希望を持てるチャレンジを組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を共創します。



デジタル活用で世界と音楽で繋がり、デジタル・音楽・芸術が融合した新たな文化を浜松から発信。



遠隔医療やIoT[®]を活用した見守りでどこでも安心して生活。AI[®]がデータに基づきお薦めの食事や運動を紹介してくれて、いつまでも健康に生活。



世界の学校と繋がりオンライン留学。AIが自分にあった学習メニューを推薦。年齢に関係なく、誰でも多様な学ぶ機会があり、いつでもチャレンジ可能。



高齢者や障がい者、外国人、女性、誰もがデジタル技術に支えられ、社会と繋がり、それぞれの力を発揮。



ドローンやロボットの活用で省力化と生産性が向上。AIやビッグデータ[®]を駆使し、付加価値が向上した儲かる農林業が実現。



どこにいてもドローンで好きなもの・サービスがいつでも届く。免許を返納してもライドシェアや自動運転で自由にどこへでも移動。

【デジタルで“繋がる未来”のキーワード】

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワークや多拠点居住の促進）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）



スマホ1台でどこでもいつでも簡単手続。必要な情報は必要な時に届き、困ったときは、24時間、AIコンシェルジュが対応。職員の対面相談も選べる、便利で安心な市役所。



センサーのデータやAI予測により危険を回避。被害を最小限に抑え、災害の状況もリアルタイムで可視化。大切な人や情報、支援に繋がり安全安心な社会を実現。

官民共創のまちづくりやアジャイル型のまちづくりを支える共通のルールとして、以下の5つの原則を基本原則としてデジタル・スマートシティを推進します。

1 オープン／相互運用性

- データを流通させることで新たな価値を生み、多様な主体が参加することでイノベーションを創発するため、オープンであること、そして、相互運用性が高いことを原則とします。
(オープンな議論の場、オープンデータ※⑤、オープンソース※⑥、標準API※⑦、GitHub※⑧上でのオープンな開発等を推奨)

2 包摂性／多様性

- デジタル化を人に強いるのではなく、あらゆる人の社会活動や都市運営をサポートするツールとして活用していきます。デジタルで高齢者、障がい者、外国人、女性をはじめ、すべての人の社会参加を支え、包摂的で多様な社会を目指します。
- 先端技術やデータの活用の効果は、経済性や効率性だけでなく、社会的なインパクト（課題解決への寄与等）を大切にしています。

3 透明性／プライバシー

- データの流通や活用には、信頼関係の構築が欠かせません。信頼関係の構築のため、透明性の確保や個人情報・プライバシーの保護に配慮して取り組んでいきます。
- 収集されたデータは、ダッシュボード※⑩やBIツール※⑪等を活用し、積極的に可視化していきます。また、データに基づく政策形成（EBPM※⑫）や合意形成などのまちづくりにも活用していきます。

4 持続可能性

- 新たなサービスやソリューション、事業の立ち上げにあたっては、設計や実証実験の段階から、運用面、財政面の両面から持続可能であることが重要であることを十分に認識し進めていきます。
- 財政的な負担においては、受益者を意識した設計を行うとともに、資金調達においては、既存の枠組みに捉われない持続可能な調達のあり方を検討していきます。

5 安全・安心／強靭性

- 自然災害や不慮の事故、サイバー脅威、その他トラブルによる障害が生じても最低限の都市機能を維持し、早急に復旧できるよう配慮し、システムや体制の構築に努めます。

「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」を中核に、官民共創でデジタル・スマートシティを推進し、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。



■ 推進体制

- 官民連携プラットフォームは、各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ利活用を推進。
- 官民連携プラットフォームは、民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム及びコーディネーターの機能を担う。



■ 目指すエコシステム※②

- ベンチャーなどから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- トライ&エラーを繰り返し、社会実装へと繋げる。

【市民】

市民は、実証実験への参加やサービスを選択するという間接的な参加やシビックテック※③など直接的な参加を通じ「市民QoL向上」に貢献。

【企業】

企業は、地域課題の解決に貢献することで新たなビジネスやイノベーションの創出の機会とする。

「国土縮図型都市・浜松」の多様な実証フィールドの活用



V 第一期（2020年度～2024年度）における重点分野の設定

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、①本市の強みを生かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナのニューノーマルや安全・安心への対応、③課題解決型のアプローチにより持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組みます。

①浜松の強みを 唯一無二のものに

- ウェルネス※②⑤
- 産業（ものづくり・農林業）
- 音楽文化・エンターテインメント
- 商業・観光

②浜松らしい ニューノーマル※④社会の実現を目指して

- リモートワーク※⑥・多拠点居住※⑦
- 見守り・災害対応
- 教育・子育て
- デジタル・ガバメント

第一期

デジタル・
スマートシティ
浜松
の基礎固め

③デジタルの力で持続的・包摂的社会を構築

- モビリティ
- 社会参加促進
- インフラ
- エネルギー・循環型社会

④共創の基盤を構築し より強固なものに

- 官民共創による推進体制の強化
- 人材育成
- データ連携基盤※⑧の整備やオープンデータの拡充
- 通信基盤等の整備や利活用促進

(1) 浜松の強みを唯一無二のものに

ウェルネス

背景：健康寿命3期連続日本一



- 「予防・健幸都市浜松」実現に向けた官民連携
- 健康情報を活用した生活習慣病等の予防・改善
- 介護ロボット等の活用による介護従事者の負担軽減
- OAI等を活用した健診（検診）の受診率向上



産業（ものづくり・農林業）

背景：世界的なものづくり企業の立地
スタートアップ・エコシステム拠点都市



- 国土縮図型都市・浜松のフィールドを活用した新たなサービスやソリューションの創出
- サテライトオフィス※⑨等を活用したベンチャー企業等の誘致
- スマート農林業※⑩の推進
- 中小企業の生産性向上に向けたIT・IoT等の活用支援



音楽文化・エンターテインメント

背景：世界的な楽器メーカーの集積
ユネスコ創造都市（音楽分野）



- デジタル技術を活用した文化事業の実施
- ニューノーマル時代のエンターテインメントの新たな楽しみ方の創出と普及
- インターネットを活用した音楽文化等の発信とリモートによる国際交流の推進



商業・観光

背景：多様で豊かな観光資源や自然環境



- デジタル・マーケティング※⑪の活用による情報発信
- 新しい生活様式に即した観光の活性化と賑わいの創出
- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- キャッシュレスの推進
- デジタルを活用したインセンティブ付与による誘客や消費活性化の研究



(2) 浜松らしいニューノーマル社会の実現を目指して

リモートワーク・多拠点居住

背景：リモートワークや多拠点居住等の需要の高まり



- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進【再掲】
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進【再掲】
- リモートワークやテレワーク※⑫の推進
- テレワークパーク構想※⑬の推進
- 副業・兼業人材の活用促進



見守り・災害対応

背景：安全・安心な生活の追及



- IoT等を活用した高齢者や子供の見守り推進
- 災害予測や災害状況の効果的な把握
- 災害関連情報の効果的な提供
- 避難所の効果的な3密対策



教育・子育て

背景：子育て世代を全力で応援するまち



- OGIGAスクール構想※⑭の実現に向けた教育環境整備
- オフライン授業とオンライン授業のハイブリッドによる持続可能な教育の推進
- ICT等を活用した子どもや子育て世代への効果的な情報提供や相談体制の構築



デジタル・ガバメント

背景：コロナ禍におけるオンライン化等のニーズの高まり



- 書面規制・押印・対面規制等の見直し
- 行政手続きのオンライン化やキャッシュレスの推進
- マイナンバーカードの取得促進とマイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充
- 多様な伝達手段による情報の提供
- AIやICT等の活用による生産性の向上
- DX推進に向けた職員の人材育成



(3) デジタルの力で持続的・包摂的社会を構築

モビリティ

背景：人口減少による公共交通や各種サービスの持続困難
交通事故ワースト1、渋滞の改善や周遊性の向上



- モビリティとサービスの連携による持続可能なまちづくりの推進
- モビリティサービス推進コンソーシアムを中核とした官民連携によるプロジェクトの創出
- 医療MaaS※⑳の推進
- デリバリープラットフォーム※㉑の推進
- テレワークパーク構想の推進【再掲】



社会参加促進

背景：多様で包摂的な社会構築の要請



- AIやICT等の活用による障壁の除去
- バリアフリー情報等のオープンデータ化の促進
- 情報へのアクセシビリティ※㉒の向上
- ICT技術やSNS等を活用した市民参加の促進
- シニア向けスマホ講座等の充実



インフラ

背景：全国で2番目に広い市域とインフラの老朽化



- ドローンやセンサー等の活用によるインフラの老朽化対策
- 点群データ※㉓などインフラ情報のデジタル化
- 都市のデジタル化推進におけるインフラの利活用や高度化の検討



エネルギー・循環型社会

背景：再生可能エネルギー導入容量 日本一
環境と共生した持続可能な社会実現の要請



- 「浜松市域“RE100※㉔”」の実現に向けた推進
- スマートコミュニティ、スマートタウンのモデルの構築
- スマートプロジェクトの実現
- 新清掃工場及び新破碎処理センターをモデルとしたサーキュラーエコノミー※㉕の推進



(4) 共創の基盤を構築し、より強固なものに

官民共創による推進体制の強化

背景：官民連携の中核となるプラットフォームの設立



- 浜松市フェロー等外部人材の活用
- 官民共創によるプロジェクト創出に向けたアイデアソン※④等の開催
- 次代を担う若者世代の巻き込み
- 官民連携プラットフォームを活用した分野間の連携促進
- シビックテックとの連携や共創



人材育成

背景：DX推進を担う人材の確保や育成の必要性の高まり



- 次代を担う若者の育成
- データ利活用に関するセミナーやハッカソン※④等の開催
- シニア向けスマホ講座等の充実【再掲】
- 人材育成におけるリモートやオンラインセミナー等の活用
- 人材育成における大学やCode for Japan※④等との連携



データ連携基盤の整備やオープンデータの拡充

背景：分野横断のデータ利活用による地域課題の解決を目指すまちづくりの推進



- データ流通のハブとなるデータ連携基盤の整備と利活用
- データ連携基盤の活用事例の創出 (Ori-Projectの推進)
- オープンデータプラットフォーム (ODPF) の整備と利活用
- 点群データのオープンデータ化と利活用促進



通信基盤等の整備や利活用促進

背景：デジタル時代のインフラとしての通信基盤のニーズの高まり



- 中山間地域等への光ファイバ網の整備支援
- 5G※④アンテナ基地局の設置や利活用の促進
- 各種通信（高速・低速等）活用の事例の共有と横展開
- 活用事例の創出やニーズ喚起による各種通信インフラ整備の働きかけ



※① 浜松市デジタルファースト宣言	令和元年10月31日に発出。「データ活用や地域課題解決を通じたイノベーションの活性化」「デジタル化による生産性向上」「デジタル技術やデータの活用による市民生活の快適化」を目指すことを宣言。
※② デジタルニューディール	「新たな日常」構築の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備のこと。
※③ DX	データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデル、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革すること。
※④ デュアルモード社会	経済効率を重視する「経済モード」と、国民の健康と安全とを最優先にする「安全モード」の2つのモードを新型コロナウイルス感染症の状況に応じて適宜切り替える社会。
※⑤ 経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）	国の経済対策等の基本骨格を示したもの。
※⑥ 統合イノベーション戦略	科学技術に係る基礎研究から社会実装まで一貫通貫の戦略として2018年から毎年度国が策定する戦略。
※⑦ QoL	Quality of Lifeの略。人々の幸福感・効用など、社会のゆたかさや生活の質のこと。
※⑧ 都市の最適化	都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、効果的・効率的な都市計画、都市整備、都市管理・運営を実現すること。
※⑨ オープンイノベーション	内部と外部の技術やアイデアなどの資源の流入入を活用し、組織内で創出したイノベーションを組織外に展開する市場機会を増やすこと。
※⑩ サービスデザイン思考	サービスを利用する際の利用者の一連の行動に着目し、サービス全体を設計する考え方。
※⑪ アジャイル	【Agile】「俊敏な」「すばやい」という意味の英単語。アジャイル型まちづくりでは、仕様や設計の変更があることを前提に開発を進めていき、徐々にすり合わせや検証を重ねていくというアプローチをとる。
※⑫ IoT	「Internet of Things」の略。従来インターネットに接続されていなかった様々なモノが、ネットワークを通じて相互に情報交換をする仕組み。
※⑬ AI	「Artificial Intelligence」の略。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術といった広い概念で理解されている。
※⑭ ビッグデータ	スマートフォン等を通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビでの視聴・消費行動等に関する情報、また小型化したセンサー等から得られる膨大なデータのこと。
※⑮ オープンデータ	国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易かつ無償で利用できるように、公開されたデータのこと。
※⑯ オープンソース	ソフトウェアのソースコードを公開して、改良や再配布を認めるという思想。
※⑰ 標準API	サービス提供者が公式に仕様を定義・管理しているAPIのこと。APIは、Application Programming Interfaceの略。

※⑱ GitHub	ソフトウェア開発プラットフォーム。オープンソースプロジェクトやビジネスユースまで、GitHub上にソースコードをホスティングすることで数百万人もの他の開発者と一緒にソフトウェアの開発等を行うことができる。
※⑲ ダッシュボード	複数の情報源からデータを集め、概要をまとめて一覧表示する機能や画面、ソフトウェアなどを指す。
※⑳ BIツール	企業内にあるさまざまな種類の業務データを統合、分析、可視化することで、ビジネスの意思決定に必要な情報を提供するツールのこと。BIは「Business Intelligence」の略。
※㉑ EBPM	「Evidence Based Policy Making」の略。政策目的を明確化したうえで合理的根拠に基づき政策企画を行うこと。
※㉒ エコシステム	複数の企業や団体がパートナーシップを組み、それぞれの技術や強みを生かしながら、業種・業界の垣根を越えて共存共栄する仕組み、すなわちビジネス上の生態系のこと。
※㉓ シビックテック	シビック（Civic：市民）とテック（Tech：テクノロジー）をかけた造語。市民自身が、テクノロジーを活用して、行政サービスの問題や社会課題を解決する取り組みをいう。
※㉔ ニューノーマル	新型コロナウイルス感染症の流行を経て移行する人々の行動・意識・価値観の新たな常態・常識のこと。
※㉕ ウエルネス	疾病・障害の有無にかかわらず、明るく前向きに生きようとする心を育てること。
※㉖ リモートワーク	※㉚ テレワークと同義。
※㉗ 多拠点居住	都市部や地方部に複数の拠点をもち、定期的に地方部でのんびり過ごしたり、仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つ。
※㉘ データ連携基盤	複数主体が個別に保有する情報システム及びデータ同士の相互の連携を確保するための仕組みのこと。これにより1対1で結合されていたシステム・サービスの壁を越えて様々なデータを様々なシステム・サービスで活用することが可能になる。
※㉙ サテライトオフィス	企業や団体の本社・本拠から離れた場所に設置されたオフィスのこと。
※㉚ スマート農林業	ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農林業のこと。
※㉛ デジタルマーケティング	インターネットやIT技術など「デジタル」を活用したマーケティング手法のこと。ビッグデータ技術やAIなどを活用して顧客の嗜好や行動を分析し、隠れたニーズやトレンドまでを考慮して行われる。
※㉜ テレワーク	情報通信技術(ICT = Information and Communication Technology)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。
※㉝ テレワークパーク構想	車や駐車場を活用することでより良いテレワーク環境をつくり、浜西市をあげてテレワークを促進していくために「浜松テレワークパーク実現委員会」により発案された構想。

※③④ GIGAスクール構想	文部科学省が提唱する構想。一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、子供の資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するとしている。
※③⑤ MaaS	Mobility as a Serviceの略。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせで検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる。
※③⑥ デリバリープラットフォーム	テイクアウト紹介サイトや飲食店の情報と配送事業者とを結びつけるプラットフォーム。浜松市内ではFoodelixというプラットフォームが構築されている。
※③⑦ アクセシビリティ	【accessibility】近づきやすさ、利用しやすさ、などの意味を持つ英単語で、ITの分野では機器やソフトウェア、システム、情報などが身体の状態や能力の違いによらず様々な人から同じように利用できる状態やその度合いのことを指す。
※③⑧ 点群データ	実空間に存在する物・環境を3Dセンサによってその表面形状を取得した3D点の座標の集まりのデータのこと。
※③⑨ “RE100”	The Climate GroupとCDPによって運営される企業の自然エネルギー100%を推進する国際ビジネスイニシアティブのこと。企業による自然エネルギー100%宣言を可視化するとともに、自然エネの普及・促進を求めるもので、世界の影響力のある大企業が参加している。
※④⑩ サーキュラーエコノミー	従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」のリニアな経済（線形経済）に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済を指す。
※④⑪ アイデアソン	※④⑩ハッカソンの項を参照。
※④⑫ ハッカソン	「ハック」と「マラソン」を組み合わせた造語で、ソフトウェア開発に関わる人々が集まって、集中的にプログラムやサービスの開発を行うイベントのこと。アイデアの創出を目的としたイベントは「アイデアソン」（アイデア+マラソン）と呼ばれる。
※④⑬ Code for Japan	「ともに考え、ともにつくる」をコンセプトに、民間と行政が共に技術活用をしながら課題解決を行っていく場づくりを行う非営利団体。2013年10月25日設立。
※④⑭ 5G	第5世代移動通信システムのこと。超高速通信や、多数の機器が同時にネットワークに繋がる「多数接続通信」、遠隔地でもロボット等の捜査をスムーズに行える「超低遅延通信」が可能になる予定。

4 (仮) スマホやICTお出かけ講座



1 趣旨

デジタル・スマートシティの推進にあたり、デジタル技術の活用による恩恵を誰もが受けることができるように、高齢者等を対象にしたスマホの使い方やテレビ会議の開催方法等に関する講座や相談会に講師を派遣する制度を創設し、官民連携で市民QoLの向上や包摂的な地域づくりを目指すもの。

2 実施体制

実施主体：浜松市、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携
(企画運営) プラットフォーム
協力団体：官民連携プラットフォームの会員から募集
(講師派遣)

3 実施内容 (想定)

上記の実施主体が、官民連携プラットフォームの会員から協力団体を募集し、スマホの使い方やテレビ会議の開催方法等に関するお出かけ講座をメニュー化し、協働センターや地域の団体等に講師を派遣する。

※詳細は、改めて会員の皆様にご案内いたします

5 各事業の状況報告



- (1) 浜松ORI-Projectの進捗状況
- (2) 浜松デジタル・スマートシティMONTH事業
- (3) デジタル・スマートシティ浜松オンラインフォーラム開催概要
- (4) 相生校区8町合同地域防災訓練

(1) Hamamatsu ORI-Projectの進捗状況



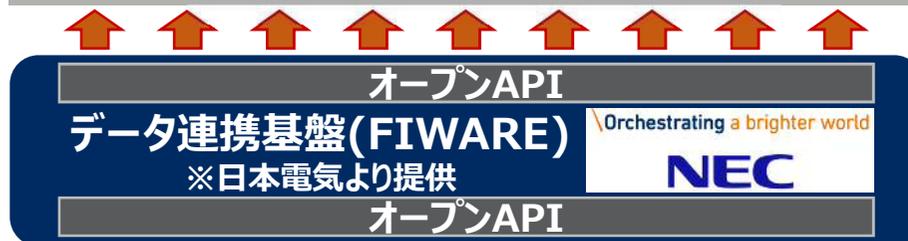
Hamamatsu ORI-Project

Digital Smart City HAMAMATSU

- Hamamatsu ORI-Projectとは、データ連携基盤「FIWARE(実証環境)」を活用した実証実験プロジェクトのこと。
- 全国から19件のご提案を頂き、今年は8件のプロジェクトを採択。その内、3件のプロジェクトをご紹介します。

Hamamatsu ORI-Projectとは

- Hamamatsu ORI-Project
(Hamamatsu **O**pen **R**egional **I**nnovation Project)
正式名称：“デジタル・スマートシティ浜松”データ連携基盤を活用した
実証実験募集プロジェクト
- スマートシティ推進に必要な不可欠なデータ連携基盤を活用したユース
ケースの創出、及び新たなアプリケーションやサービスの創出が目的。



各種オープンデータ



浜松市や官民連携プラットフォーム、
その他団体の持つオープンデータ

新たな浜松市データ



IoTセンサーや技術を活用し、
新たな浜松市データを取り込む

採択プロジェクト紹介

今年度は19件の応募プロジェクトのうち、8件を採択しました。

テーマ	法人名・団体名	実証実験プロジェクト名称
複数分野の連携	クラ・ゼミ	きりサポート・プロジェクト ※クラ・ゼミ支援のオープンデータ化等
複数分野の連携	静岡大学	高精度衛星測位を用いた市土保全モニタリング
複数分野の連携	スマートバリュー	ORI-Projectデータビジュアライズ実証
複数分野の連携	パイフotonクス	光と画像データを活用した中心市街地における ムクドリ被害対策
複数分野の連携	梅林寺企画	児童・高齢者への支援ネットワークサービス (こども食堂連携・相互情報提供)
COVID-19対策	浜松医科大学	ウイルス感染の社会実験的シミュレーション
COVID-19対策	セールスフォース・ドットコム	避難所におけるCOVID-19感染防止対策の実証
その他	オサシ・テクノス	冠水エリア予測システム

ORI-Project

検索

<https://www.ori-project.hdsc.city/>



実証実験プロジェクトの概要

■ 実証実験プロジェクト名称

高精度衛星測位を用いた市土保全モニタリング

■ 背景・目的

<背景>

浜松市における自然災害として、**地震や大雨などによる土砂災害や河川氾濫や津波の懸念**や、遠州浜の砂浜流出などが挙げられる。

<目的>

衛星測位によるセンチメートル精度の位置推定技術を用いて、**特徴的な地点の地殻や水面の精密な変化をリアルタイムで観測**し、防災や市土維持のために役立てられるデータを取得し活用する基盤の構築を目指す。

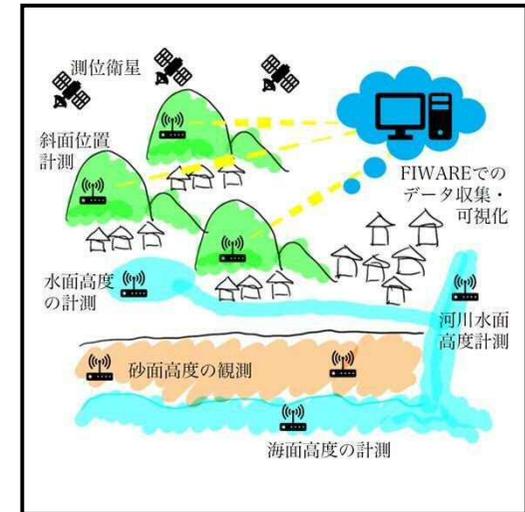
■ 概要

<内容>

高精度衛星測位（GNSS）モジュールと通信装置を内蔵した**デバイスを市内各所に設置**し、自動的に位置データが定期的にFIWAREに集まるようにシステムを構築する。

設置場所については**静岡県が地すべり対策を事業を実施している「佐久間町大滝地区」**を対象とし、収集したデータは行政利用だけに留まらずオープンデータ化を検討する。

■ 実験イメージ



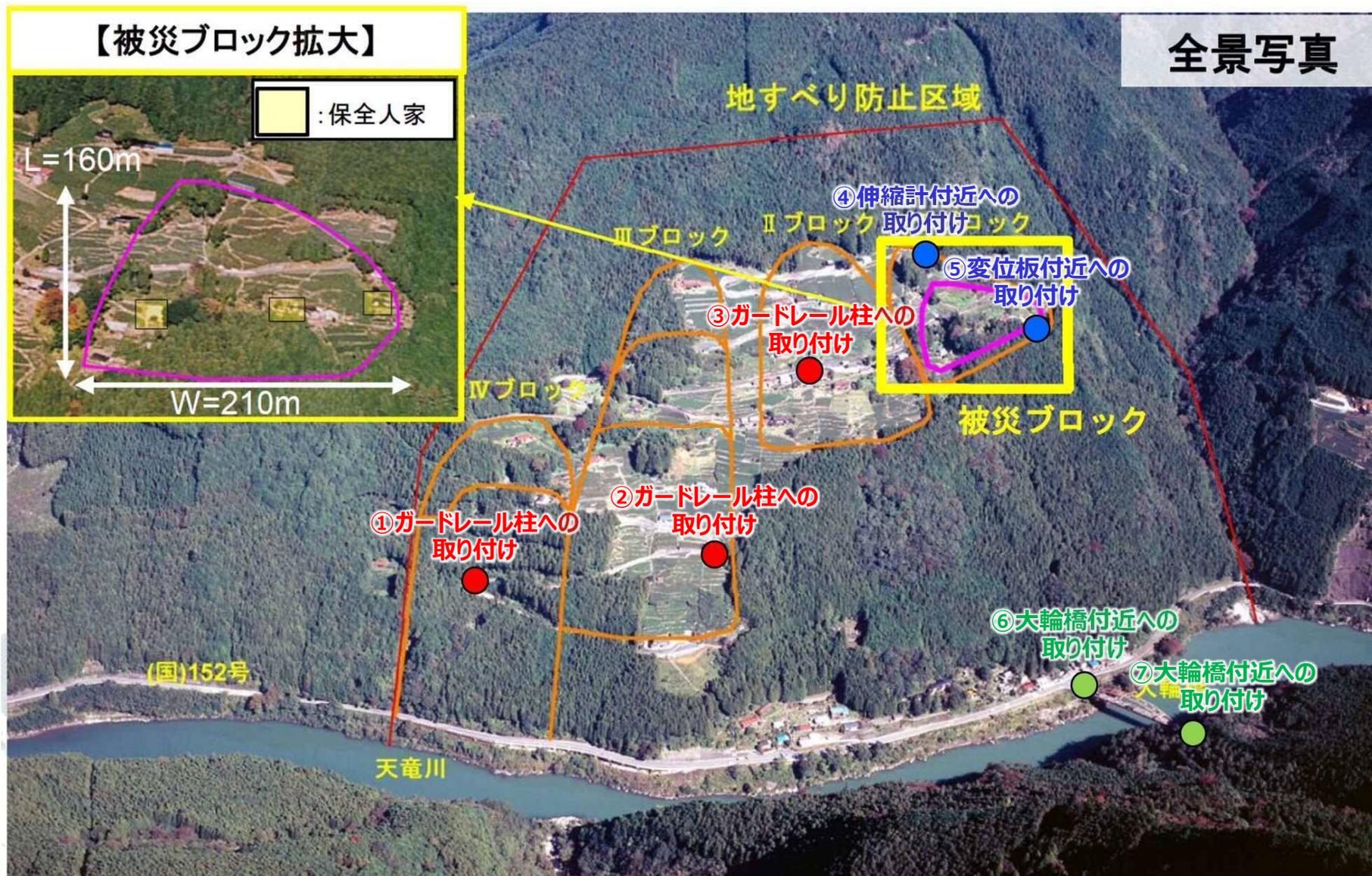
■ 高精度衛星測位センサー



■ スケジュール

項目	11	12	1	2	3
全体	準備・機器設置	実証実験①			
詳細	★現地視察など	★実証実験開始		★中間取りまとめ	

実証候補地 概要図



設置センサーについて

■ ガードレール設置型【①～③、⑥～⑦】



バッテリー併設タイプと
ソーラーパネル付きタイプの2種類

■ 杭型【④～⑤】



杭型で地面に刺して設置するタイプ
バッテリーは不要

■ 電源（バッテリー）【⑥～⑦】



実証実験プロジェクトの概要

実証実験プロジェクト名称

光と画像データを活用した中心市街地におけるムクドリ被害対策

背景・目的

<背景>

街路樹をねぐらとするムクドリの大群による騒音及び糞により、**浜松市の中心市街地の景観が損なわれている。**

<目的>

浜松市の課題である中心市街地におけるムクドリ被害を解消し、**きれいな景観を取り戻す。**



概要

<内容>

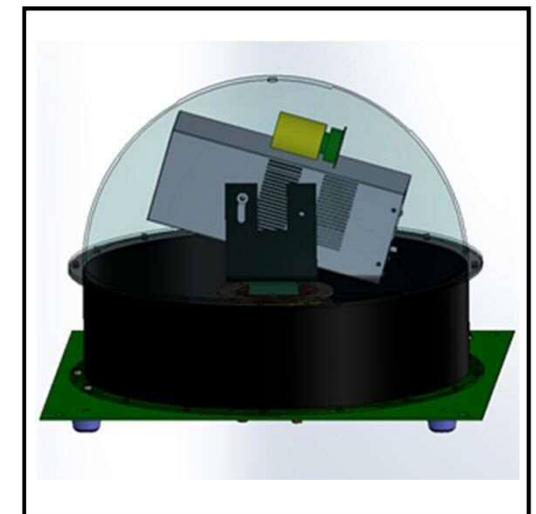
- ・浜松ザザシティ前向かいの店舗アーケードの**屋根上に定点カメラとムービング機能を搭載したLED投光器（ホロライト）を設置**する。
- ・浜松ザザシティ前の街路樹（実験の対象は10本）をねぐらとする**ムクドリの大群に対して指向性の高いLED光を投射**することで刺激を与え、目的地まで誘導してムクドリ被害を軽減させる。
- ・街路樹から街路樹へ移動をするムクドリをカメラで捉えて、画像解析によりムクドリの動きを検知・追跡し、自動でライトを動かして光を当てる。



位置図



使用機器イメージ



スケジュール

項目	9	10	11	12
全体	準備・機器設置	実証実験①	結果分析・改良	実証実験②
詳細	★現地視察	★実証実験①開始		★実証実験②開始

第1回 実証実験の結果

- 10月中の3日間に分けて実証実験を実施。
- ライトによる追い払いの効果を、自動照射及び手動照射の両方で確認。

■ 実施日

令和2年10月6日(火)、13日(火)、27日(火)

■ 実施内容

指向性の高いLEDライト照射装置（ホロライト）を手動、及び自動にて操作し、追い払い効果の確認を行う。

■ 実施結果

街路樹照射による退避行動を確認（自動設置型/ハンディ型）



■ 実験装置



街路樹以外への照射による退避行動を確認（ハンディ型）



十分なムクドリ追い払い効果を確認

第2回 実証実験の内容（予定）

- 12月中の3回に分けて実証実験を実施予定。
- ムクドリの動きをカメラで撮影し、データ化することが主な内容。

実施予定日

令和2年12月1日(火)、8日(火)、15日(火)~17日(木)
 ※天候などの条件により、変更の場合もありますのでご了承ください。

実施内容

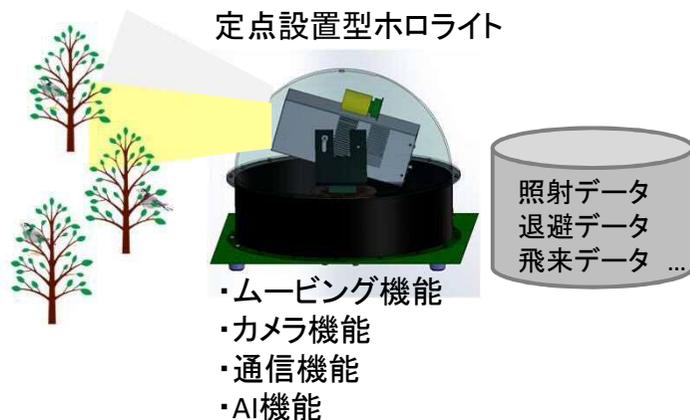
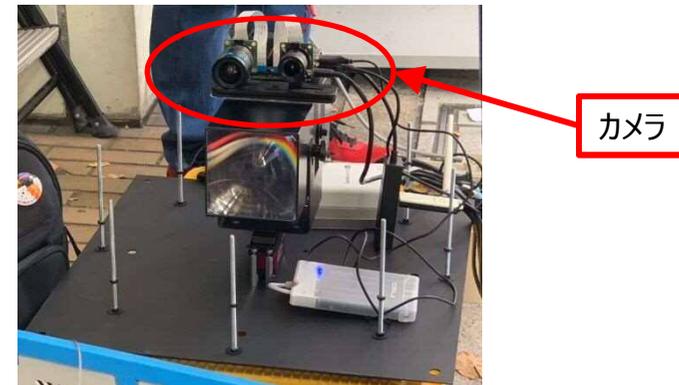
鍛冶町通南側の街路樹10本に対してホロライトの光を照射し、ムクドリの動きを**カメラで撮影してデータ化する**

- 1日(火)、8日(火)は当日設置の上、データ取り実験を予定
- 15日(火)~17日(木)は3日間の常設の上、データ取り実験を予定**

実験イメージ



実験装置



AI学習

データ連携基盤



実証実験プロジェクトの概要

実証実験プロジェクト名称

冠水エリア予測システム

背景・目的

<背景>

現在、**気象災害は増加**しており、浜松市も例外ではない。特に東海地方は台風による被害を受けやすく、昨年も複数の地域で冠水が発生している。本実証は、このような背景のもとで下記のことを目的とする。

<目的>

①冠水エリアの予測・検知

現在、排水能力に起因した冠水は検知する仕組みが構築されていないことがほとんどであるため、**冠水が発生するエリアにセンサーを設置し、リアルタイムで冠水の検知**が可能となる体制を構築する。

②冠水メカニズムの解明

今回実証するエリアにおいて、冠水が何故発生するのか、そのメカニズムは明確に判明していない。**河川の水位などのデータと本実験のデータを用いて、冠水メカニズムの解明**に取り組む。

概要

<内容>

・水位計測、冠水検知

冠水が発生する「**若林北交差点**」付近の**道路わきに水位センサー、及び冠水センサーを設置**する。水位を計測し、GIS上に表示すると共に、データを管理することで**災害担当者が現場の状況を把握**できるようにする。

・データ活用

水位データ、冠水エリア予測データは、気象庁の雨量データや河川の水位データ等と共に保存し、**冠水メカニズムの解明**に活用する。

※水位センサー

水圧測定を利用して、設置場所がどの程度水位上昇しているか、数値で確認することが出来る。

※冠水センサー

水に浸かることで反応するセンサー。設置場所が冠水したことを知らせる。

水位センサー（水位を計測）



冠水センサー（冠水の発生を検知）



スケジュール

項目	9	10	11	12
全体	準備・機器設置	実証実験		
詳細	★現地視察	★実証実験開始		

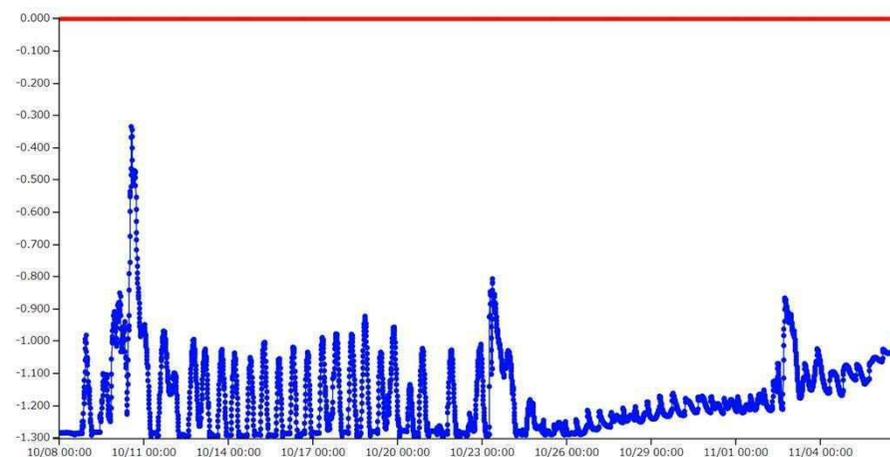
設置後の状況

- 各種センサーデータをFIWAREにアップロードし、GIS上に表示。
- データから、冠水が発生するエリアの水位については雨以外にも潮位などが関係していることがわかった。

GIS上に表示されたデータ



設置時から1か月間の水位データ



冠水が発生するエリアのデータ可視化

今後の展望

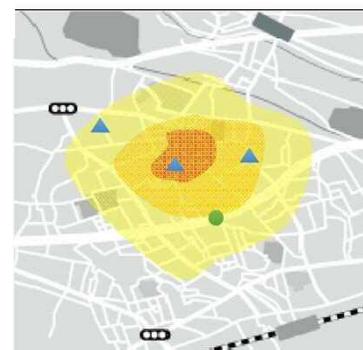
Digital Smart City HAMAMATSU

- 現在取得出来ているデータ以外にも、河川データや国土地理院標高データなどを連携させ、冠水のメカニズムについて調査を行う。
- その他、様々なデータを連携させて新たなサービス創出につなげる。

冠水エリア予測システム(構築中) (地図上に冠水情報を表示)



様々なデータを連携し、 市民QOLの向上につなげる



その他プロジェクトやサービスに
データを活用

各種オープンデータ

市・県河川水位データ

国土地理院標高データ

気象庁雨量データ

etc

センサー取得データ

対象エリアの水位データ

対象エリアの冠水状況データ

対象エリアの雨量データ

例) 冠水データ×避難所データ
例) 冠水データ×交通状況データ 等



(2) 浜松デジタル・スマートシティMONTH事業



デジタル・スマートシティMONTH事業

Digital Smart City HAMAMATSU

- 市民へのデジタル・スマートシティ啓発月間として、「デジタル・スマートシティMONTH事業」の準備を進めてきました。
- 現在の状況についてご報告いたします。

MONTH事業の目的

市民の皆様“デジタル・スマートシティ浜松”を身近に感じていただき、一緒に浜松の未来を考えていく機会とするため

実施期間

令和2年12月1日 ~ 31日

全体スケジュール

項目		2020年度					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月
主催事業	防災訓練と連携した事業	開催内容検討				事業PR	●12/6 開催
	フォーラム	開催内容検討					●12/17 開催
冠事業	冠事業	冠事業募集					開催
□募集		□募集	選定	●10/1 公表			

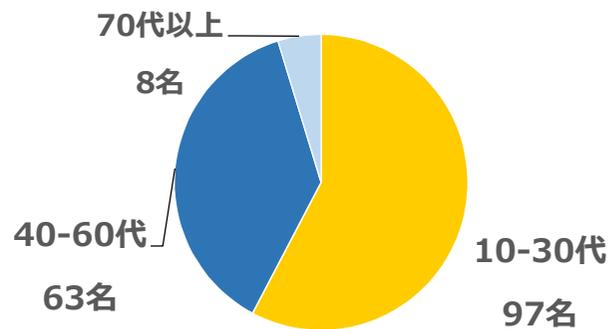
ロゴマークデザイン募集結果

Digital Smart City HAMAMATSU

- 7月初旬から8月の中旬まで、全国からロゴマークデザインを募集。
- 県内外問わず、様々なエリアからの応募がありました。

168名より **168点** の応募受付（令和2年8月20日締切）

年代別応募人数内訳

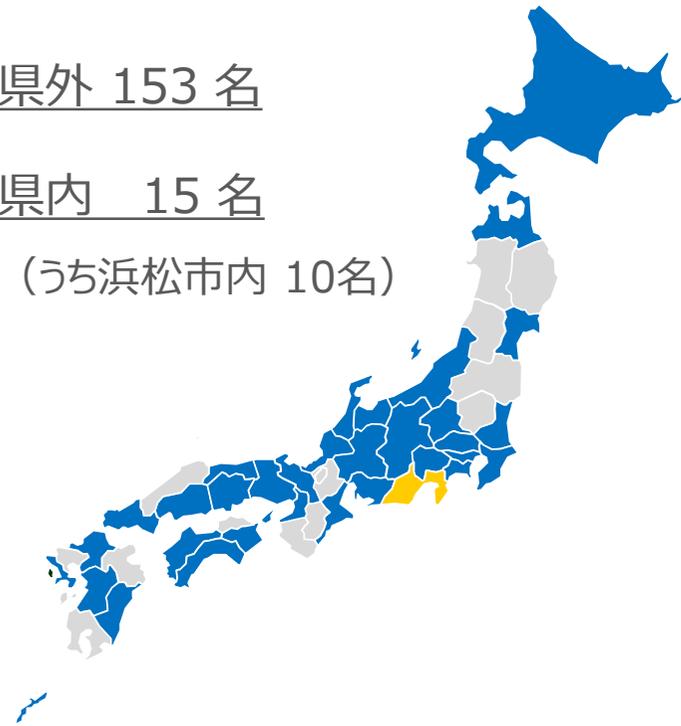


地域別応募人数内訳

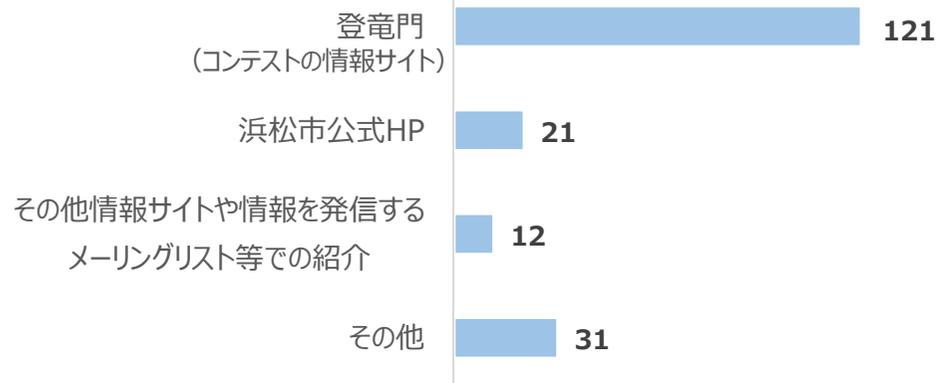
県外 153 名

県内 15 名

（うち浜松市内 10名）



募集を知った経緯（複数回答）



決定した公式ロゴマークデザイン

Digital Smart City HAMAMATSU

- Hamamatsuの“H”と、技術ではなく“人”中心で推進していくという“Human”の“H”をかけてデザインされており、市民目線でデジタル・スマートシティを推進していくという本市の理念に合致。
- また、現在策定しているデジタル・スマートシティ構想の中で重要なキーワードになっている“繋がる”というイメージも伝わってくるデザインとなっております。

■提案者氏名

亀田 康平

■提案者の所在

東京都小金井市

■作家プロフィール

21歳、大学生。趣味でサイトを公開（<https://fs-iturtle.com/works>）

■ロゴマークデザインのコンセプト説明

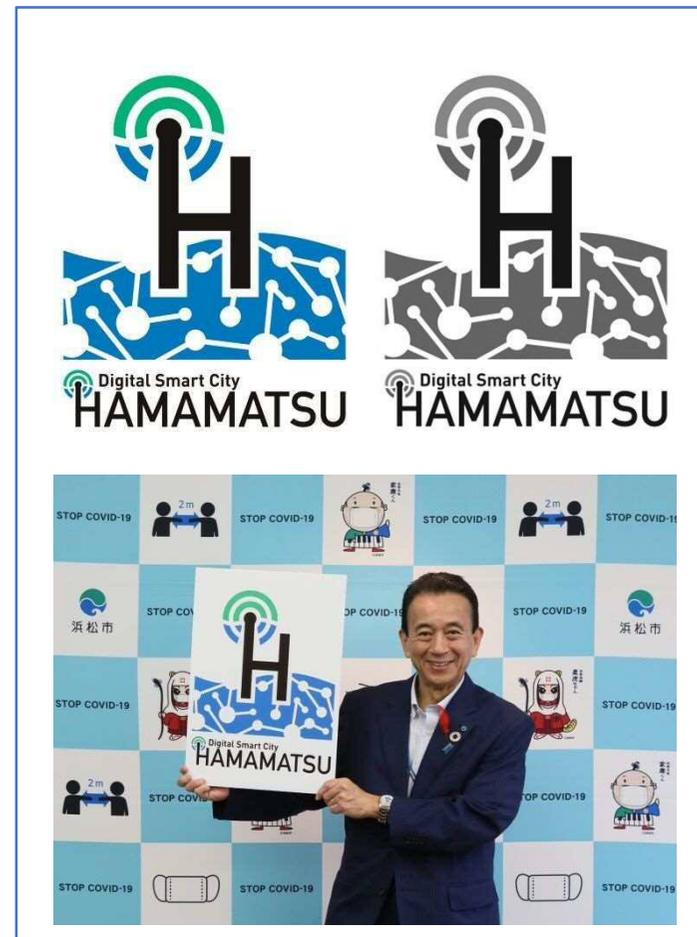
UI（ユーザー・インターフェース：利用者とサービスとの接点）において多用されるフラットデザインを用いて、デジタルを全面に用いた取り組みであることをアピール。

背景は浜名湖や遠州灘の波を模し、波の青色は浜松市の市章に使用されている浜松市ブルーを用いている。波の中には点と辺で構成されるグラフ模様を配置し、データの活用を表している。この波には市民や団体、行政など、様々な人がデジタル技術やデータを活用することで、リンクされ活性化するという意味も込められている。

中心の“H”は“HAMAMATSU”の“H”、そして“HUMAN”の“H”を示しており、スマートシティはあくまで市民一人一人のQOL（生活の質）向上のために構築されるものであることを表現している。“H”に電波状のアイコンを配置することにより、市民一人一人が情報をやり取りし、アクセス出来ることを意味している。

字体は直線および円より作られたものであり、どんな人にとっても分かりやすい“スマートな印象”を与え、“デジタルに対する先入観”を払拭するデザインとなっている。

■カラー



冠事業一覧

Digital Smart City HAMAMATSU

- 12月に開催される、デジタル・スマートシティに関連したイベント・セミナーを冠事業として広く募集いたしました。
- 企業・団体による23の関連イベント・セミナーにご応募いただきました。

「浜松デジタル・スマートシティMONTH」冠事業一覧

ガンバレ部活動! 夢おいチャレンジ動画募集

開催日/オンラインにて開催中 対象/県西部の中学校に在籍の中学生
主催/浜松いわた信用金庫

みんなで作ろう!スマートシティ ~未来へ繋がるまちづくり~

開催日/12月10日、オンラインにて開催 対象/スマートシティに興味をお持ちの方
主催/西日本電信電話株

エコレシピで作る!
クリスマス料理教室 (オンライン)

開催日/12月20日、YouTubeにて開催 対象/全ての方 主催/浜松市

キャッシュレス決済試行

開催日/12・1月 会場/中区区役所、浜松市博物館
対象/住民票等の交付を申請される方、博物館来館者 主催/浜松市

DXで成長する企業の在り方セミナー 2020

開催日/12月10日 会場/オンライン&市内会場
対象/浜松市内企業等 主催/株NOKIO

ITなんでも相談会

開催日/12月21日 会場/浜松商工会議所
対象/浜松商工会議所会員企業 主催/浜松商工会議所

浜松商工会議所パソコン教室 iPhone&iPad入門・活用講座

開催日/12月1~26日 会場/浜松商工会議所会館
対象/浜松地域にお住まいの方、通勤の方 主催/浜松商工会議所

先端技術展 - 技人(わざびと)たちの物語 -

開催日/12月10~23日 会場/静岡文化芸術大学ギャラリー&オンライン
対象/全ての方 主催/静岡文化芸術大学

子ども・若者サポート事業

開催日/12月21日~1月16日、LINEにて開催
対象/全ての方 主催/浜松市

コロナで困っている学生にアルバイトを!
デジタル・スマートシティにおけるイノベーションDX人材とのつながり

開催日/オンラインにて開催中
対象/学生、企業、教育機関、行政 主催/PlanetWalker株

今年のクリスマスはAlexaで盛り上がりよう!

開催日/12月12日 会場/浜松市子育て情報センター 対象/子育て世代の親子
主催/認定NPO法人はままつ子育てネットワークびび(ママゼミ)

「繋がるって楽しい」「地元って、会社って楽しい」
- スマートシティ入り口(UX)企画 ちょびっと体験でメリット体感 -

開催日/12月24日 会場/浜松アリーナ 対象/先着30名 主催/株クレステック

浜松発! 明日から取り組める、働き方デジタル改革ウェビナー

開催日/12月3日、オンラインにて開催 対象/DX推進及びその人材活用
に関心のある市内事業者 主催/株静岡銀行

最新IoT機器で、節電&楽家事…感染対策も!

開催日/12月12日 会場/パナソニックショールーム
対象/子育て世代の親子 主催/株エネジ(ママゼミ)

冬休みエネルギー体感ツアー

開催日/12月26日 会場/サンプラザ浜松
対象/市内小学校に通う小学5~6年生とその保護者 主催/浜松市

資産運用はロボアドバイザーにおまかせ!

開催日/12月9日、オンラインにて開催
対象/子育て世代の親 主催/浜松いわた信用金庫(ママゼミ)

浜松市デジタル・スマートシティ・フォーラム

開催日/12月17日、オンラインにて開催
対象/全ての方 主催/浜松市

浜松国際ピアノコンクール出場者たちの ピアノ・フェスティバル

開催日/12月27日 会場/アクトシティ浜松中ホール&オンライン配信
対象/全ての方 主催/浜松市

知名度・集客・売上アップ! ホームページ作成「ウェブサポ」セミナー

開催日/12月9日 会場/浜松商工会議所
対象/浜松市内で商売をされている方 主催/浜松商工会議所

浜松市SDGs推進プラットフォーム取組発表会

開催日/12月18日、オンラインにて開催
対象/浜松市SDGs推進プラットフォーム会員、一般の方 主催/浜松市

ささえあいハッカソン

開催日/11月28日、12月5日・12日、オンラインにて開催
対象/市内外の学生、起業家、会社員など 主催/浜松市

ジブンゴト デキルコト ~ごみ処理にどう活かす?デジタルのカ~

開催日/12月10日、オンラインにて開催
対象/子育て世代の親子 主催/株ミダック(ママゼミ)

発達障害のある子どもたちの学びと育ちを支える
タブレットを使ったICT支援技術者養成事業

開催日/12月19日、オンラインにて開催 対象/発達障害のある当事者、
その親、教員、支援者等 主催/認定NPO法人浜松NPOネットワークセンター

詳細・参加方法はHPをチェック!

浜松デジタル・スマートシティMONTH



※静岡新聞びぶれ浜松 12月号より

(3) デジタル・スマートシティ浜松オンラインフォーラム開催概要



5 (3) デジタル・スマートシティ浜松オンラインフォーラム開催概要

Digital Smart City HAMAMATSU

<概要>

開催日時：令和2年12月17日（木）13:15-17:00

主催：浜松市、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

※Zoomウェビナーによるオンライン開催

<テーマ>

デジタルで“繋がる未来”を共創

～“やらまいか型”でデジタル・スマートシティ浜松を実現～



5 (3) デジタル・スマートシティ浜松オンラインフォーラム開催概要



<プログラム>

時 間	内 容
13:15-13:20	【開会挨拶】 浜松市長 鈴木康友
13:20-13:25	【来賓挨拶】 デジタル改革担当大臣 平井卓也氏 (ビデオメッセージ)
13:25-14:25	【浜松市フェロー記念講演】 陳内裕樹氏、東博暢氏、関治之氏
14:25-14:35	【インプット】 浜松市デジタル・スマートシティ構想(案) / 浜松版MaaS構想(案) 浜松市デジタル・スマートシティ推進事業本部長 朝月雅則
14:35-15:15	【セッション1】 「各分野の取組と分野間連携」 モデレーター：(一社)スマートシティインスティテュート 南雲岳彦氏 パネリスト：池野文昭氏、熊瀧潤也氏、鈴木厚志氏、小田拓也氏
15:15-15:25	休憩
15:25-16:05	【セッション2】 「データ利活用と官民共創型のまちづくり」 モデレーター：世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター 平山雄太氏 パネリスト：関治之氏、橋本研一郎氏(NEC)、 木谷友哉氏(静岡大学)、杉本直也氏(静岡県)
16:05-16:45	【セッション3】 「“やらまいか型”でデジタル・スマートシティ浜松を実現！」 モデレーター：(株)HEART CATCH 西村真里子氏 パネリスト：鈴木康友浜松市長、東博暢氏、池野文昭氏、吹野豪氏

※フェローおよび運営委員の所属は省略

(4) 相生地区 8 町合同地域防災訓練



相生地区 8 町合同地域防災訓練

Digital Smart City HAMAMATSU

- 市民にとってデジタル・スマートシティを感じる事が出来る切り口として、今年度は「防災・安全」というテーマに基づき本訓練に關与させて頂きました。
- 当日は地域の皆様に、デジタル・スマートシティに關連した取り組みを体験いただきました。

■実施の概要・目的

市民への啓発の一環として、「デジタル技術の活用」、及び「防災関連技術の展示」を実施

■実施日時

令和2年12月6日(日) 8:00 - 10:30

■実施内容

①先端技術展示

災害時に活用可能な技術を持つ企業に、市民向けの展示を行っていただきました。

【(株)ダブルエー・ホールディングス、(株)静岡銀行、(一社)太陽光発電協会】



②地域防災訓練のライブ配信

本訓練は新型コロナウイルス感染対策として、通常よりも規模を縮小して実施することとなりました。

その為、現地に来ることが出来ない地域の皆様向けに、オンラインにて訓練の様子を見ることが出来るライブ配信を実施いたしました。



6 各分野の状況報告



- (1) 防災・安全分野
- (2) 教育・子育て分野
- (3) デジタル・ガバメント分野

■事業名

今年度 / 来年度（新規・拡充）

防災訓練の映像配信（危機管理課）

■背景・目的

コロナ禍により多人数での集合型防災訓練の実施が難しいため、参加できない住民に対して訓練の様子を動画配信することで、地域の防災力向上を図る。

■事業概要

タブレットで撮影した訓練会場の動画を、ZoomとYouTubeを活用しリアルタイムで配信する。
また、アーカイブとして残すことで、後日に確認することも可能とする。

■関係課・関係団体

デジタル・スマートシティ推進事業本部
地元自治会

■事業イメージ（図、イラスト等）

タブレットによる撮影
（Zoom活用）



YouTube
による配信



「GIGAスクール構想」の実現に向けて（教育施設課・指導課・教育センター）

1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」

～多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力を一層育成できる教育ICT環境の実現へ～

■これまでの取組(R2年度)

1 ICT教育推進プロジェクト・チームの発足（6月）

部内及びデジスマ本部と連携し、ICT教育推進体制を構築

- (1) ICT教育推進に係るロードマップの作成
- (2) 民間専門人材「教育の情報化推進アドバイザー」委嘱
- (3) ICT機器整備・活用方法等に係る学校説明会の実施

2 第3次浜松市教育総合計画 後期計画 教育の情報化編 策定 (11月)

教育総合計画における教育の情報化に関する方針

- 方針1 情報活用能力の育成
- 方針2 教科等の指導におけるICTの活用
- 方針3 教員に求められるICT活用指導力等の向上
- 方針4 機器や教材等の教育環境の充実
- 方針5 校務の情報化の推進



3 ICT環境整備

1人1台端末に向けたICT環境整備

- (1) 学習者用タブレット端末
・各学校1クラス分を配付 5,000台 (12月)
- (2) 学習用アプリケーション
・協働学習、ドリルソフト決定 (11月)
- (3) ICT支援員
・委託業者決定 (11月)



■今後の取組

1 ICT環境整備

1人1台端末整備に向けて順次配付

- (1) 学習者用タブレット端末
・R3.3～ 42,000台
・R3.4年度 約18,000台導入予定
- (2) 学習用アプリケーション
・R3.1 研修の実施
- (3) ネットワーク環境整備
・R3.3 普通教室の通信環境整備完了
- (4) ICT支援員
・R3.4 配置(各学校へ週1回程度訪問)



2 「教育の情報化推進リーダー」の育成

各学校においてICT活用の推進役となる教員を育成
・R3～「教育の情報化推進リーダー」研修の実施



3 その他

学校・保護者等間における連絡手段のデジタル化を推進

- (1) 災害時・緊急時における連絡手段の効率化
- (2) 保護者等に対するアンケート調査のデジタル化
- (3) 欠席・遅刻連絡のデジタル化 等



■現在の取組

SNSを活用した若者相談支援事業

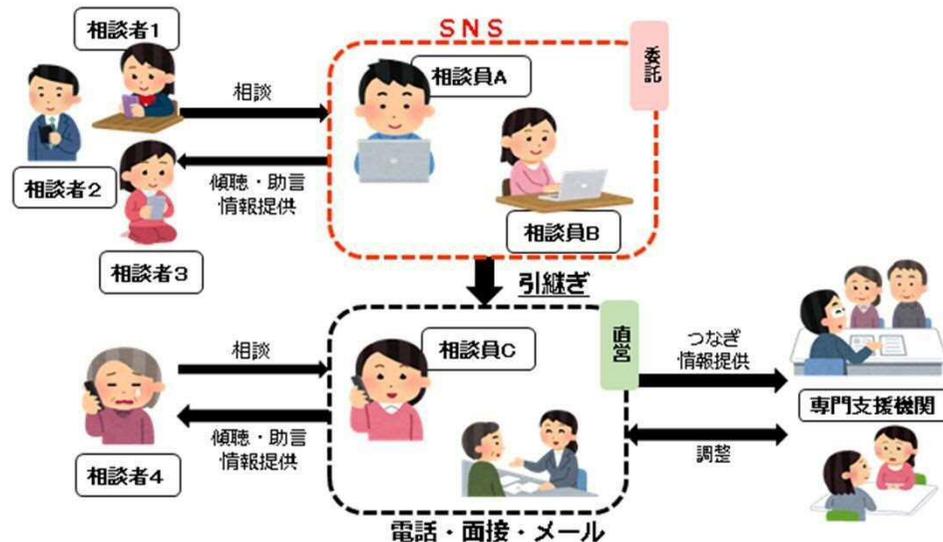
■背景・目的

既存の電話、面接相談は、家族等からの相談が多く、若者本人からの相談が非常に少ない（2割程度）。本人の状況や意向をつかむため、若者世代に普及しているSNSを活用した相談体制を構築し、よりよい支援、早期支援介入を推進する。

■取組概要

- 1 アカウント名
わかものライン相談@浜松市
- 2 実施期間
 - ①令和2年7月27日(月)～9月12日(土)
 - ②令和2年12月21日(月)～令和3年1月16日(土)
 ※日・祝、年末年始を除く
- 3 相談時間
平日・土曜の午後6時から午後10時
- 4 受付内容
日常生活、不登校、ひきこもり、発達障がい、非行等に関する関係機関の紹介など

■取組概要図（イメージ）



■今後に向けて

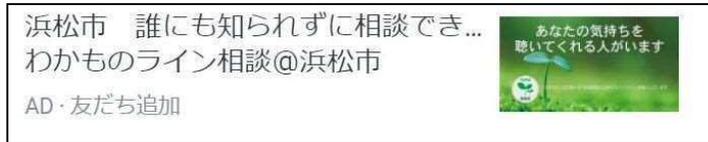
- 効果的な受付期間や時間について、ニーズや実績から検証する
- SNSで受け付けた相談を直営部分（電話・面接相談）にスムーズに引継ぐ方法を検討する

■ 広報



配付した広報用カード

- ◇カード配付…市内高等学校全生徒、市内大学、公共施設、若者支援機関 等 (30,000枚)
- ◇ちらし掲載…スーパー (遠鉄ストア)、ドラッグストア (杏林堂)、ファストフード (マクドナルド)、学習塾・予備校
- ◇Web広告…SNS (LINE) 内広告



LINE内広告イメージ

■ 相談画面



■ 令和2年度結果 (第1期)

		友だち登録	相談件数	相談者数	本人からの相談
R2	SNS (41日間)	538人	398件	153人	100人 (97.0%)
	電話・面接 (41日間)	—	32件	24人	12人 (50.0%)
参考 R1	SNS (12日間)	183人	201件	85人	73人 (91.2%)
	電話・面接 (12日間)	—	8件	6人	1人 (16.6%)

■ SNS相談の可能性

< SNS相談の強み >

若者本人からの相談率 97%

< 電話・面接相談の強み >

「わかば」としての解決率 84%

確かな「つなぎ」、早期支援介入

5. 各分野の状況報告（デジタル・ガバメント分野）

■今年度の取組

市民の利便性向上に向けた行政手続き等のオンライン化の推進

■推進の視点

- ① 市民目線の重視
市民にデジタルを強くない、使いやすさ重視
- ② やらまいか型
トライ&エラー、一律からの脱却
- ③ 変化に強い
所有から利用へ、作りこみすぎない

■進め方

- ▼ 優先的にオンライン化を推進すべき55手続
→早急にオンライン化について検討
- ▼ それ以外の手続
→書面規制、押印、対面規制がある手続は
浜松市の指針に従い見直し
制約がなく、一定の条件を満たす手続は
オンライン化を進める

■オンライン化推進強化期間

令和2年10月～令和5年3月

■先行モデルと横展開

先行モデルの推進に重点的に取り組み、今後、他の手続にも横展開していく。

分野	先行モデル
市民の身近な手続	連絡ごみの収集受付から支払いをLINEで完結
子育て世代等スマホ世代の手続	母子保健事業における予約システムの導入
法人向け手続	道路占用許可申請、入札参加資格審査申請等（静岡県電子申請システム）
厳格な本人確認が必要な手続	LINEを使った住民票のオンライン申請
簡単な申し込み手続	安全・安心な飲食店認証制度のオンライン申込にLOGOフォームを活用

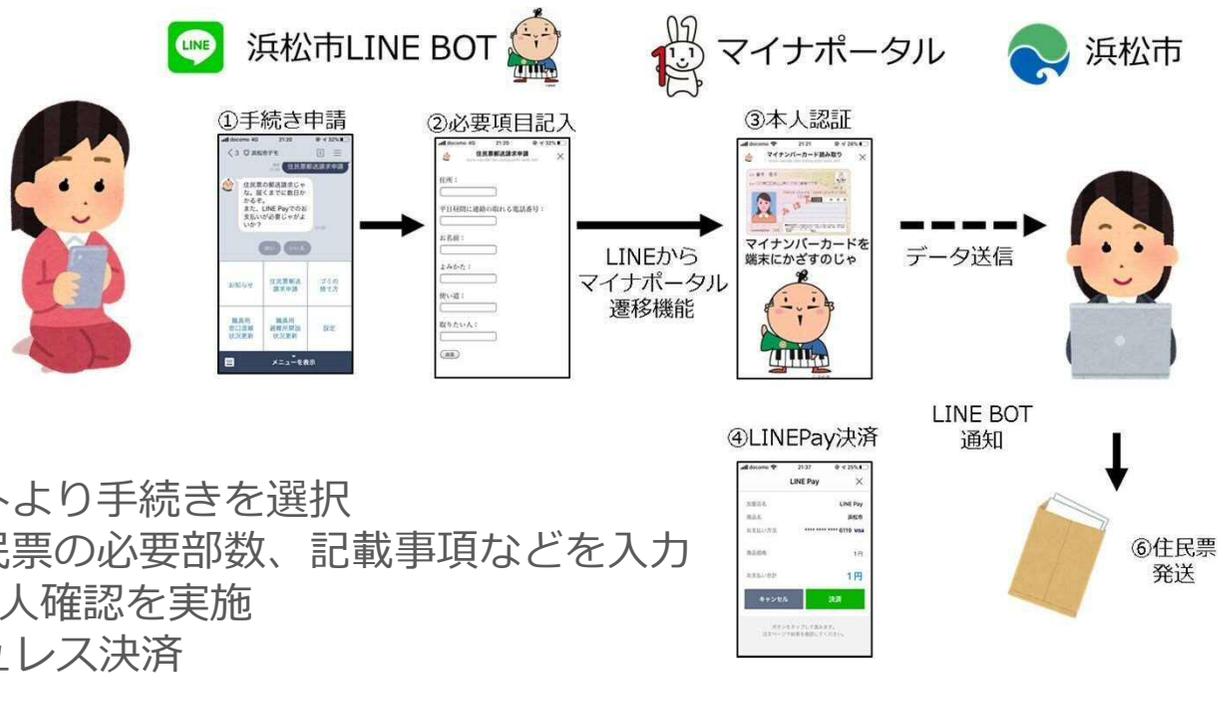
■今年度の取組

LINEを活用した住民票オンライン請求の実証実験

■概要

行政手続きオンライン化の一環として、LINEチャットボットとマイナポータルを活用し、住民票の写しをオンラインで請求するための実証実験を実施する。
(R3.1.20~2.19で実施予定)

■イメージ



■請求の流れ

- ①浜松市公式LINEアカウントより手続きを選択
- ②LINE上のフォームから住民票の必要部数、記載事項などを入力
- ③マイナポータルに遷移し本人確認を実施
- ④LINE Payによるキャッシュレス決済
- ⑤住民票の写しが郵送される

■今後に向けて

将来的に、住民票の請求以外の手続きについても拡大を検討予定

■今年度の取組

庁内におけるWeb会議システム、フリーアドレス、Slackの導入

■Web会議システム

デジタルファーストで取り組む新型コロナウイルス関連対応として、外部や庁舎間の会議を遠隔で実施するため、Web会議用タブレット端末や、多人数開催対応用のディスプレイ・スピーカー等を庁内の会議室に整備。



■フリーアドレス※新型コロナ拡散防止のため、現在休止中



デジタル・スマートシティ推進事業本部の執務スペースに、フリーアドレスを採用。
（10月より産業部にも順次導入中）

■Slack

ビジネスチャットツールSlackを活用
（10月より産業部にも順次導入中）

7 意見交換

